

12/11 本村

To Office of Experimental

Date 2001年12月10日

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2001-4-1 CYCLE)

| | | | |
|---|--------------------------------|-----------------|------|
| Experimental Group | T495 | Reporter | 飯嶋 徹 |
| Scheduled Period and Shift | 2001.11.25-2001.12.2 20 シフト | Main, Sub, Para | Para |
| Experimenters 飯嶋 徹 他 (KEK-Belle、千葉大学、リュブリアナ大学) | | | |
| <p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>エアロジェルRICH検出器のテストデータの収集を、2001年11月25日9:00より12月3日05:00まで、約20シフトを使って行った。</p> <p>マルチアノードPMTのアレイを光検出器として使用し、屈折率(1.030/1.050/1.070)、パイ中間子ビームの運動量、入射角度等をパラメーターとして、チェレンコフ光の検出光量や角度分解能の測定を行った。</p> <p>厚さ2cmのエアロジェルから放出されたチェレンコフ光リングの明瞭なイメージが得られた。一光子あたりの角度分解能については、ほぼシミュレーションの予想どおりの結果が得られている。イベント当りの光量については予想を下回っており、データのさらなる理解が必要である。</p> | | | |
| <p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.</p> <p>2001年11月25日9:00 ~ 2001年12月3日5:00。</p> <p>π^2 ビームラインを使用。主に-3.0gev/cで運転。</p> | | | |
| <p>COMMENTS</p> <p>T484グループ(名古屋大、大島)の下流で同時に実験を行った。</p> <p>割り当てビームタイムは、12月2日17時までであったが、全ての測定を終了できなかったため、Priority 1(K2)グループの了解を得て、3日早朝5時までデータ取得を続行した。</p> | | | |